

最近の感染症の動向

三重県保健環境研究所疫学研究課

本日の内容

- 感染症発生動向調査事業
- 2023年感染症発生動向調査結果
- 近年の感染症発生状況の変化

感染症発生動向調査事業とは

- 感染症法*に基づき、規定された感染症の患者発生状況を医療機関からの届出により把握・分析し、予防や診察に役立つ情報を迅速に提供・公開するとともに、積極的疫学調査により、感染症のまん延防止に役立てることを目的としています。
- 届出の対象となる感染症は、1～5類の116疾患で、全数把握（全ての医師・獣医師が届出を行う）と、定点把握（知事が指定した医療機関の管理者のみが届出を行う）に分類されています。
- 定点種別は、①インフルエンザ／COVID-19定点（内科・小児科）、②小児科定点、③眼科定点、④性感染症定点、⑤基幹定点、⑥疑似症定点があります。

※1 「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」

感染症情報の収集・分析・提供

国の感染症発生動向調査事業実施要綱に基づく感染症情報の収集・分析・提供

全ての医療機関から直ちに届出
(全数把握)

1類感染症～4類感染症(63疾患)
5類感染症(3疾患)

全ての医療機関から7日以内に届出

5類感染症(21疾患)

指定届出機関から週単位で届出
(定点把握)

5類感染症(18疾患)

指定届出機関から月単位で届出

5類感染症(7疾患)

全数把握対象疾患

類型	疾患名	2023	2022	前年比	過去10年平均	過去10年との比較 z-score
2類	結核	175	171	102.3%	267.60	-1.65
3類	細菌性赤痢		4		1.63	-1.23
	腸管出血性大腸菌感染症	57	52	109.6%	46.80	1.18
	腸チフス	1	1	100.0%	0.33	1.41
4類	E型肝炎	1	1	100.0%	3.70	-0.95
	A型肝炎		2		2.88	-1.51
	重症熱性血小板減少症候群*4	4	9	44.4%	2.67	0.49
	つつが虫病	5	7	71.4%	4.20	0.35
	デング熱	3			2.00	0.52
	日本紅斑熱	67	51	131.4%	46.10	2.07
	レジオネラ症	28	34	82.4%	25.70	0.36
5類	アメーバ赤痢	2	7	28.6%	9.50	-2.09
	ウイルス性肝炎（E型、A型を除く）	1	2	50.0%	2.78	-2.26
	カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症*5	33	24	137.5%	31.00	0.16
	急性弛緩性麻痺*6	4	1	400.0%	1.33	5.66
	急性脳炎	3	9	33.3%	6.10	-0.83
	クロイツフェルト・ヤコブ病	1	1	100.0%	2.00	-1.22
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	18	6	300.0%	8.40	2.34
	後天性免疫不全症候群	2	5	40.0%	10.10	-2.06
	侵襲性インフルエンザ菌感染症*7	7	6	116.7%	3.80	1.03
	侵襲性肺炎球菌感染症*7	23	26	88.5%	31.80	-0.68
	水痘（入院例に限る。）*5	4	2	200.0%	3.56	0.33
	梅毒	114	92	123.9%	49.50	2.52
	播種性クリプトコックス症*5	3	3	100.0%	2.89	0.07
	破傷風	1	3	33.3%	1.71	-0.81
	百日咳*8	4			120.75	-0.97

5類定点届出対象疾患（月報概況）

定点 区分	届出 単位	疾患名	性 別	2023年の 定点当	2022年の 定点当	前年比	過去10年との比較 z-score
STD	月	性器クラミジア感染症	男	5.65	6.27	0.90	1.06
			女	4.00	5.97	0.67	-2.13
		性器ヘルペスウイルス感染症	男	2.29	1.90	1.21	3.30
			女	1.41	0.94	1.49	-0.75
	月	尖圭コンジローマ	男	1.82	2.54	0.72	0.81
			女	0.41	0.76	0.54	-0.63
		淋菌感染症	男	3.06	4.79	0.64	1.00
			女	0.59	0.71	0.82	0.44
基幹	月	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	男	28.89	28.11	1.03	-1.08
			女	17.00	18.74	0.91	-0.68
		ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	男	1.78	0.56	3.20	1.98
			女	1.00	0.44	2.25	1.15
		薬剤耐性緑膿菌感染症	男	0.00	0.11	0.00	-0.79
			女	0.11	0.00	-	-0.67

定点把握対象感染症（週報告）

▪ 小児科定点

- ①咽頭結膜熱
- ②A群溶血性レンサ球菌咽頭炎
- ③感染性胃腸炎
- ④水痘
- ⑤手足口病
- ⑥伝染性紅斑
- ⑦突発性発しん
- ⑧ヘルパンギーナ
- ⑨流行性耳下腺炎
- ⑩RSウイルス感染症

*：基幹定点④、⑤は県独自に小児科定点でも把握

▪ インフルエンザ/COVID-19定点（内科・小児科）

- ①インフルエンザ
- ②新型コロナウイルス感染症

▪ 眼科定点

- ①急性出血性結膜炎
- ②流行性角結膜炎

▪ 基幹定点

- ①感染性胃腸炎（ロタウイルス）
- ②細菌性髄膜炎
- ③無菌性髄膜炎
- ④マイコプラズマ肺炎*
- ⑤クラミジア肺炎*

定点把握対象感染症（週報告）

▪ 小児科定点

- ① **咽頭結膜熱**
- ② **A群溶血性レンサ球菌咽頭炎**
- ③ 感染性胃腸炎
- ④ 水痘
- ⑤ **手足口病**
- ⑥ 伝染性紅斑
- ⑦ 突発性発しん
- ⑧ **ヘルパンギーナ**
- ⑨ 流行性耳下腺炎
- ⑩ **RSウイルス感染症**

* : 基幹定点④、⑤は県独自に小児科定点でも把握

▪ インフルエンザ/COVID-19定点（内科・小児科）

- ① **インフルエンザ**
- ② **新型コロナウイルス感染症**

▪ 眼科定点

- ① 急性出血性結膜炎
- ② 流行性角結膜炎

▪ 基幹定点

- ① 感染性胃腸炎（ロタウイルス）
- ② 細菌性髄膜炎
- ③ 無菌性髄膜炎
- ④ **マイコプラズマ肺炎***
- ⑤ **クラミジア肺炎***

定点当たり患者報告数とは

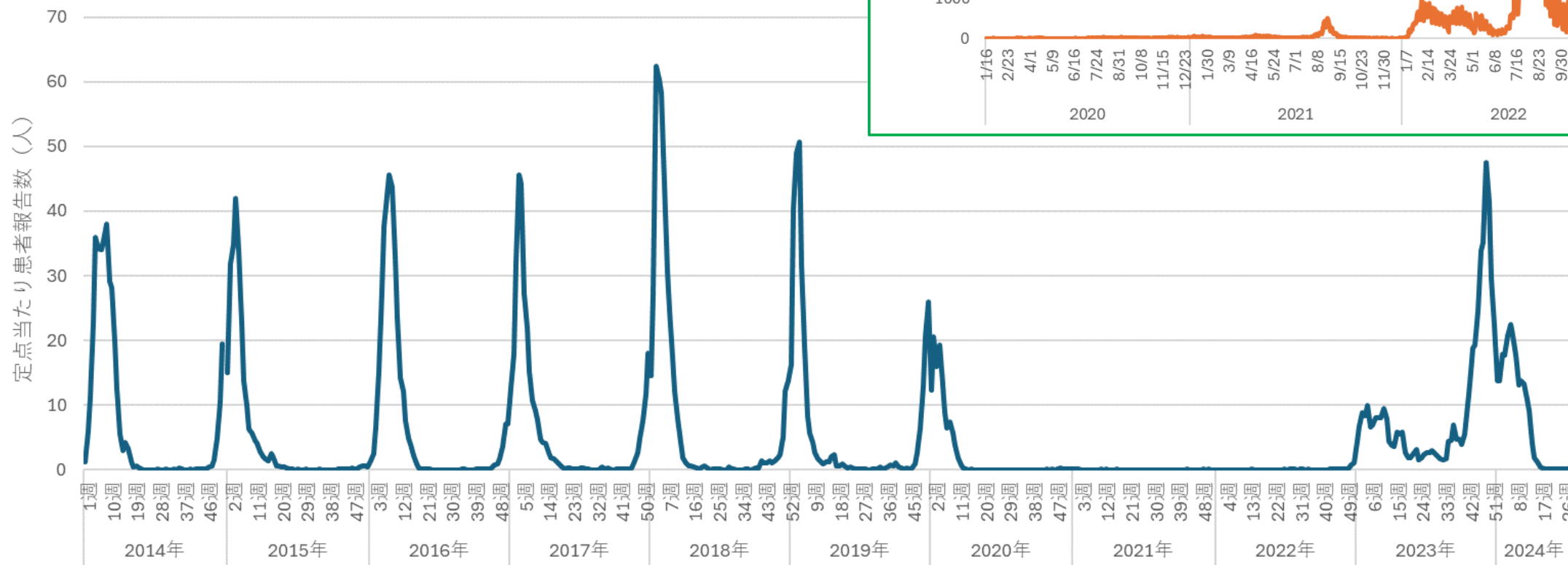
- 定点当たり患者報告数は、各定点医療機関からの患者数の合計を定点数で割った数値で、1医療機関において1週間（月～日）に診断された患者数です。

保健所管内別定点医療機関数

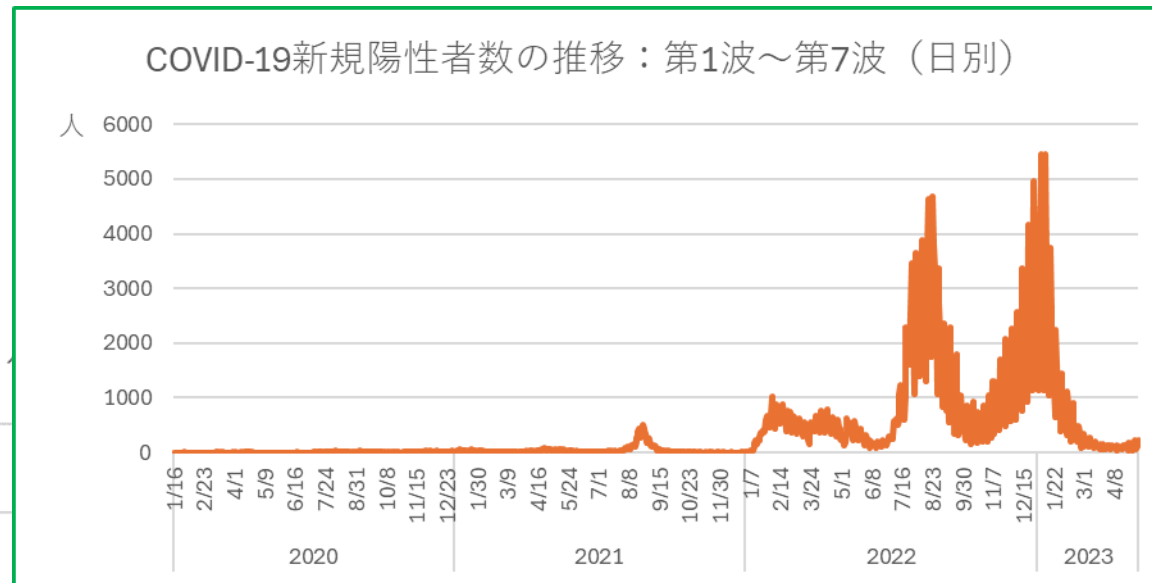
定点区分	桑名	四日市	鈴鹿	津	松阪	伊勢	伊賀	尾鷲	熊野	合計
小児科定点	6	7	6	7	5	7	5	1	1	45
インフルエンザ/COVID-19定点（小児科+内科）	10	10	10	11	8	11	8	2	2	72
眼科定点	1	2	1	2	1	2	1	1	1	12
性感染症定点（皮膚科、泌尿器科、産婦人科）	2	3	2	2	2	2	2	1	1	17
基幹定点	1	1	1	1	1	1	1	1	1	9

新型コロナウイルス感染症の出現による影響

三重県の過去10年間のインフルエンザ

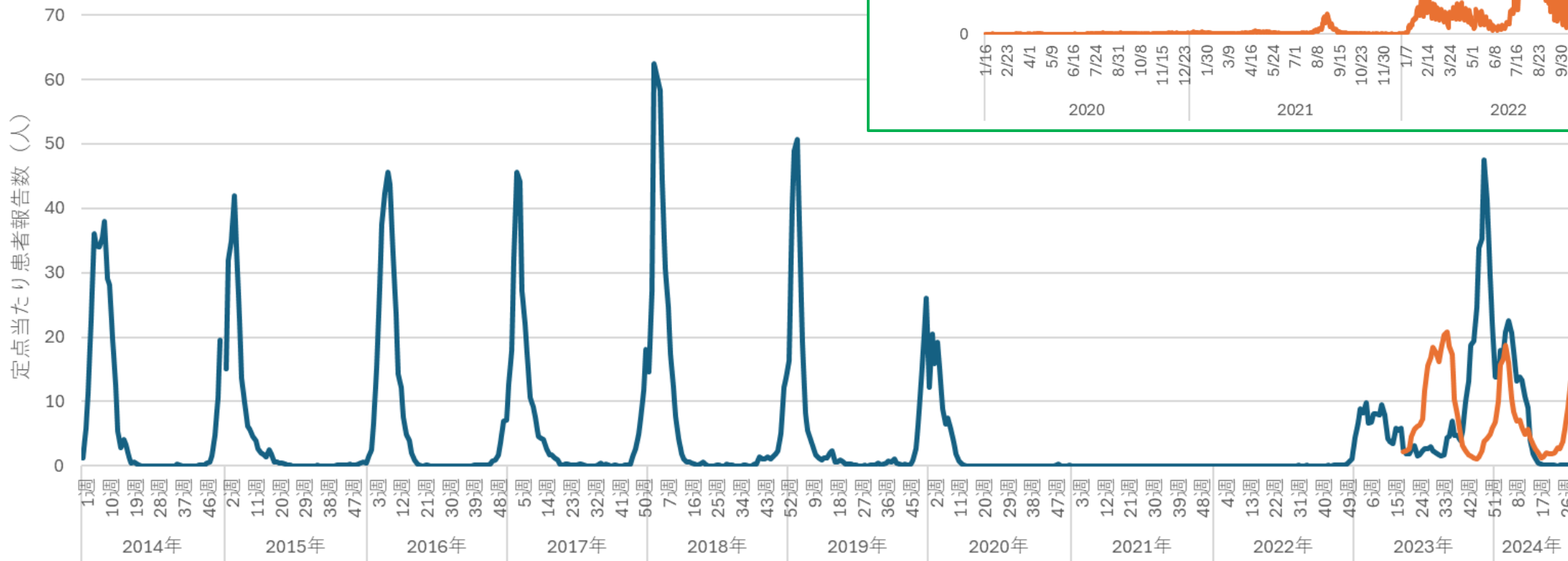


COVID-19新規陽性者数の推移：第1波～第7波（日別）

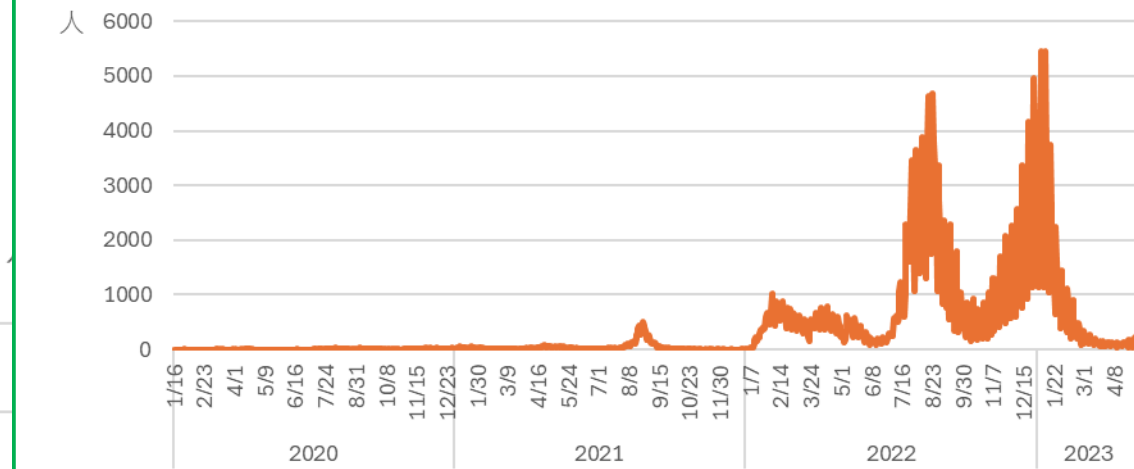


新型コロナウイルス感染症の出現による影響

三重県の過去10年間のインフルエンザ



COVID-19新規陽性者数の推移：第1波～第7波（日別）



手足口病

病原体

コクサッキーウイルスA16 (CA16)、CA6、
CA10、エンテロウイルス71

感染経路

飛沫感染、経口感染

好発年齢

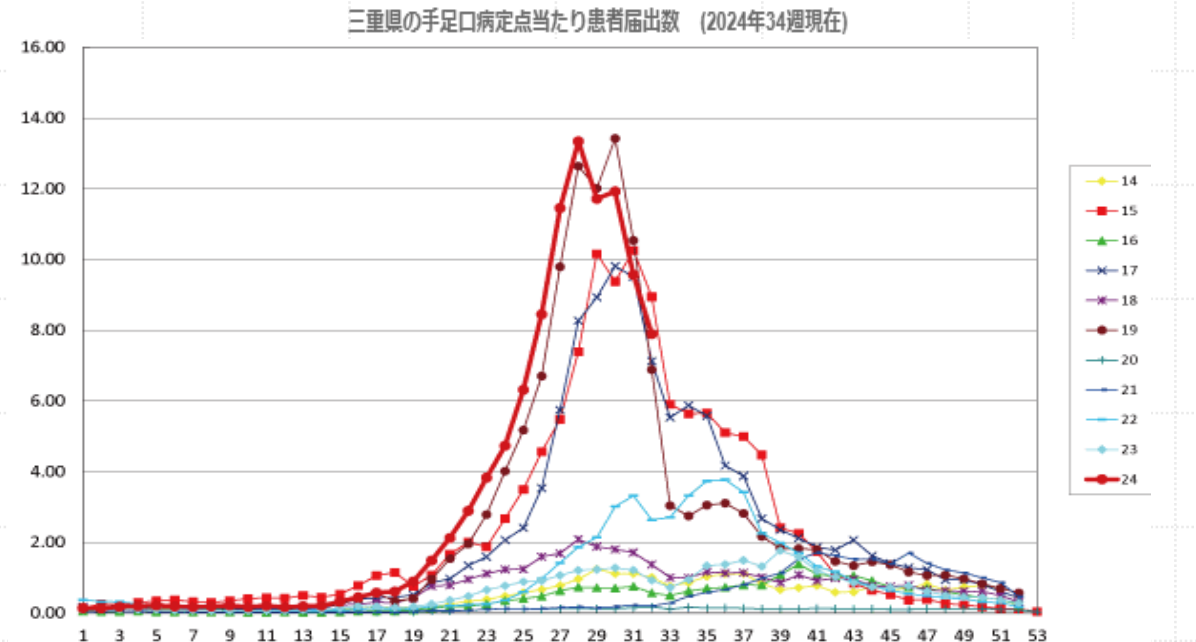
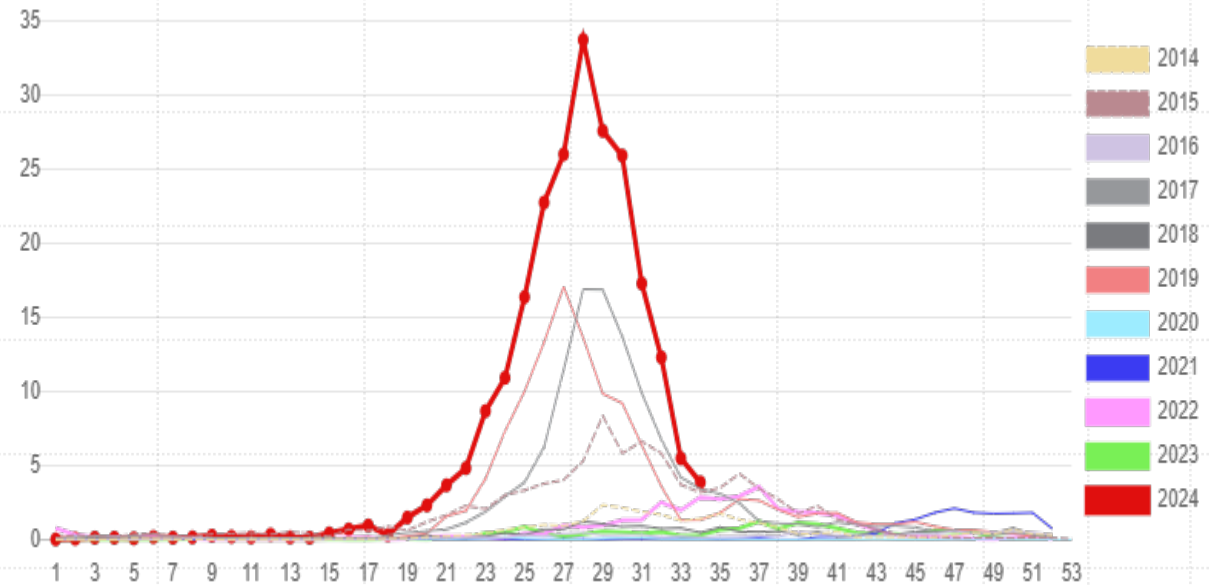
1歳を中心に4歳位までの幼児に多い

流行時期

夏季に流行のピークがある

登校（園）基準

症状が回復した後



国立感染研 <https://www.niid.go.jp/niid/ja/kansennohanashi/441-hfmd.htm>

県情報センター https://www.kenkou.pref.mie.jp/disease_hand_foot_mouth.html

全国の定点当たり患者報告数 (2024年32週現在)
国立感染症研究所ホームページより

ヘルパンギーナ

■ 病原体

主にコクサッキーウイルスA群

■ 感染経路

接触感染を含む糞口感染、飛沫感染

■ 好発年齢

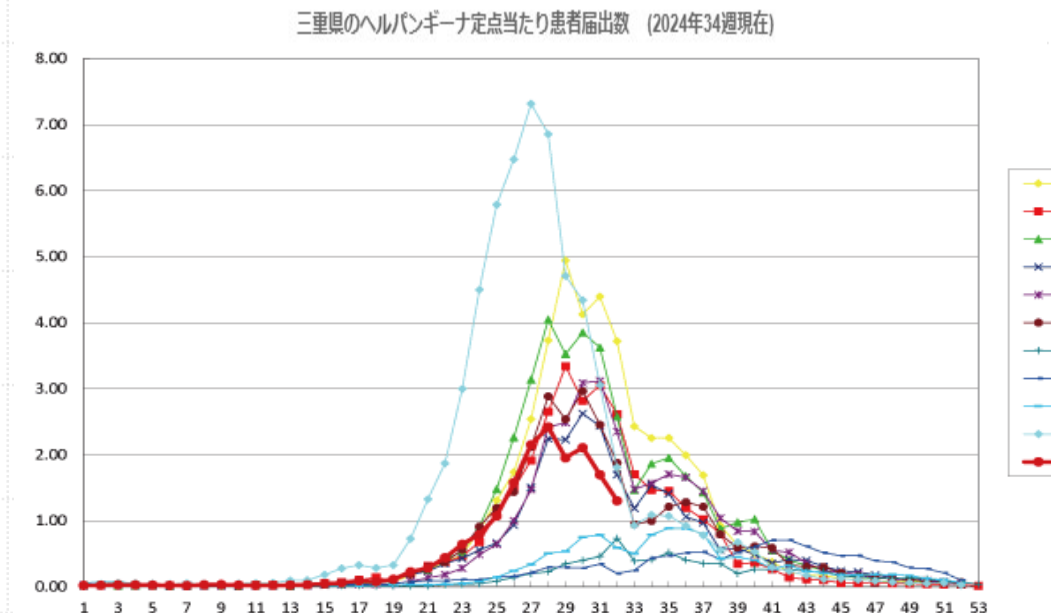
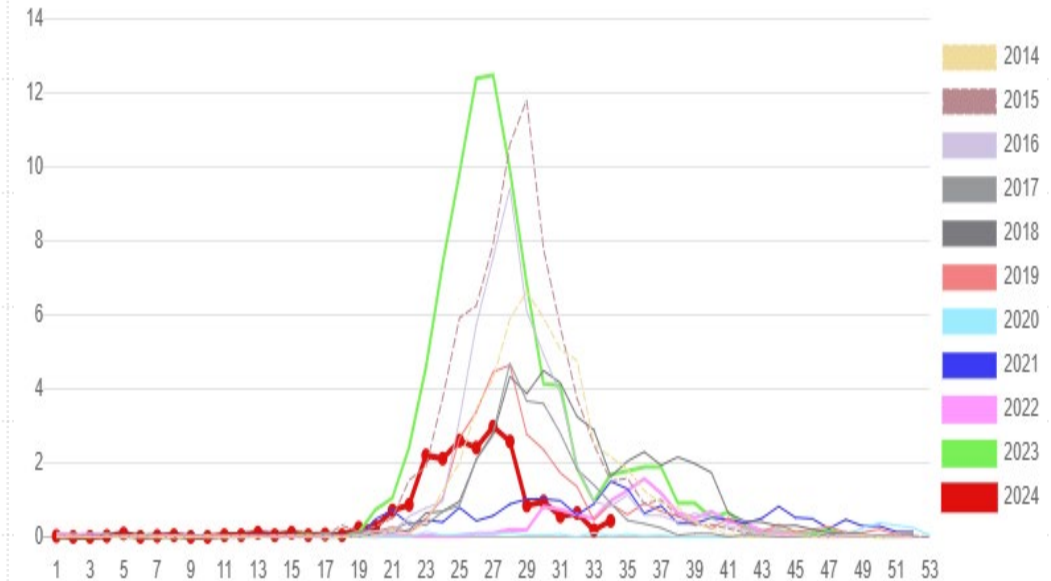
1歳を中心に4歳位までの幼児に多い

■ 流行時期

例年、7月頃に流行のピークがある

■ 登校（園）基準

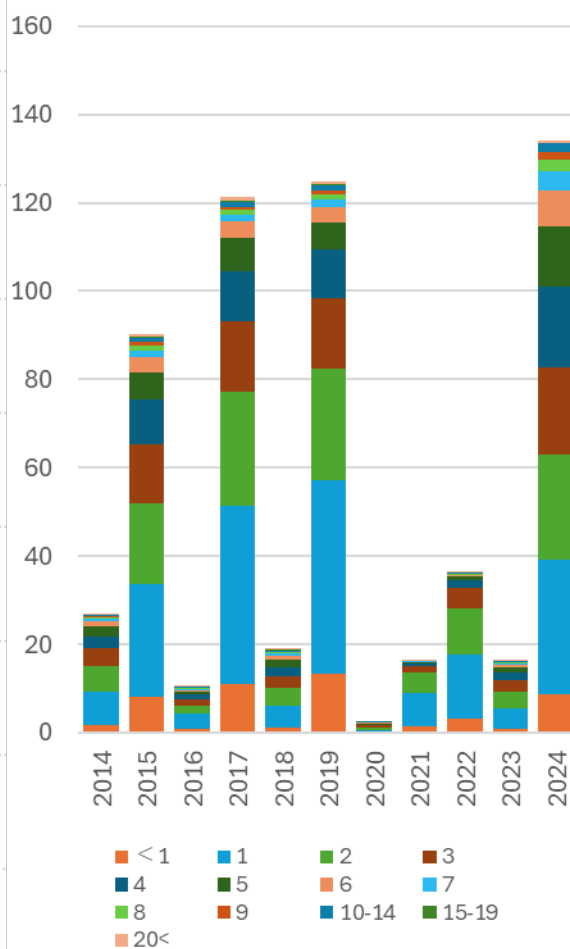
症状が回復した後



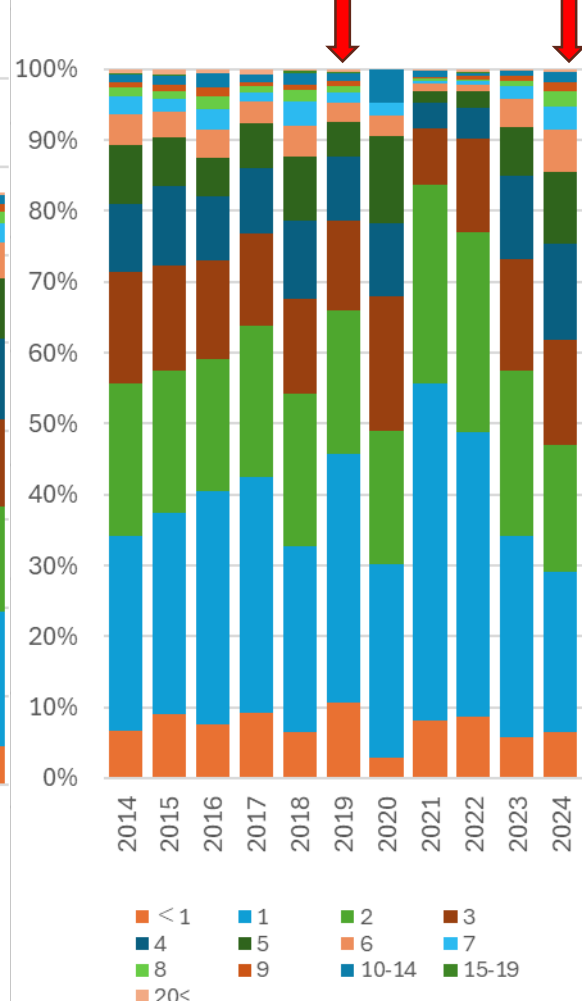
新型コロナウイルス感染症の出現前後の患者発生状況

(2024年は第28週現在まで)

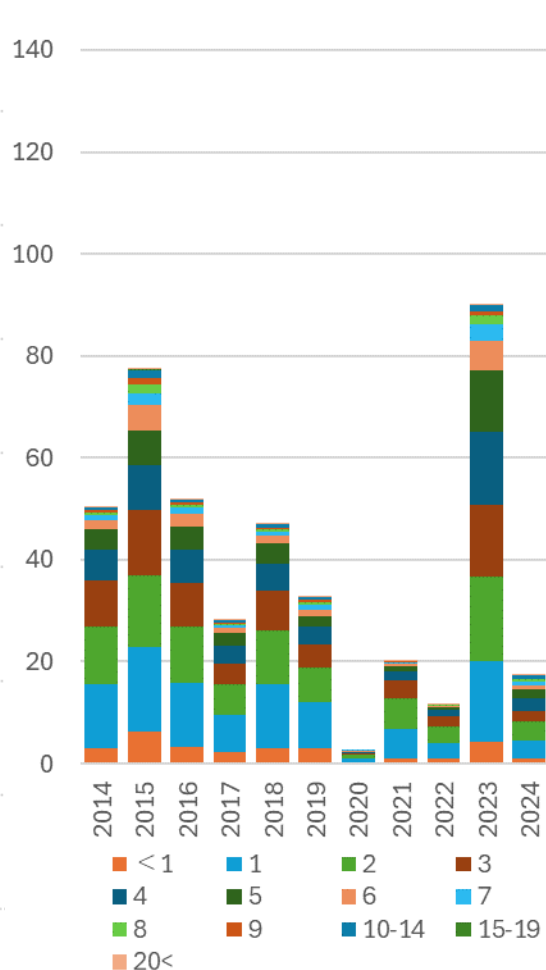
手足口病患者の年別定点当たり患者報告数



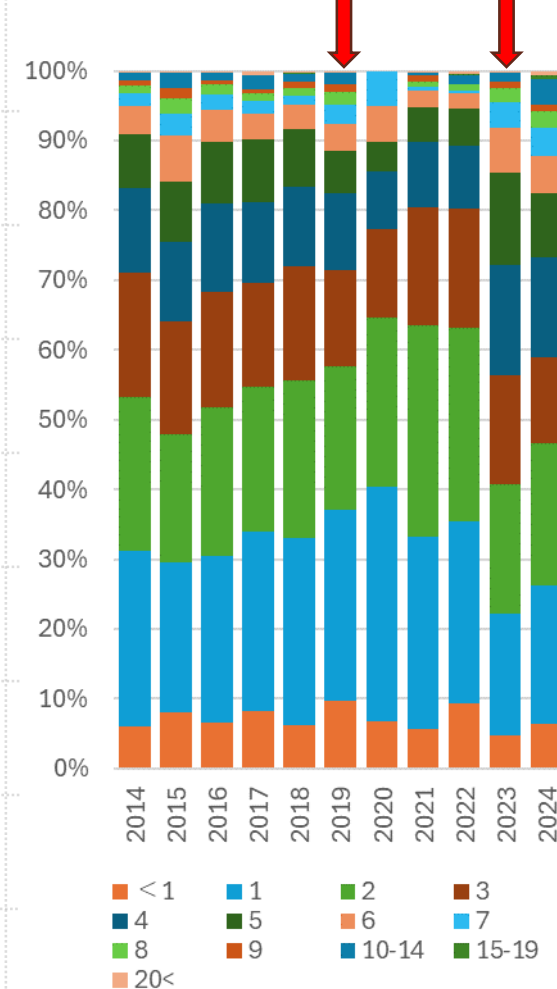
手足口病患者の年齢別割合



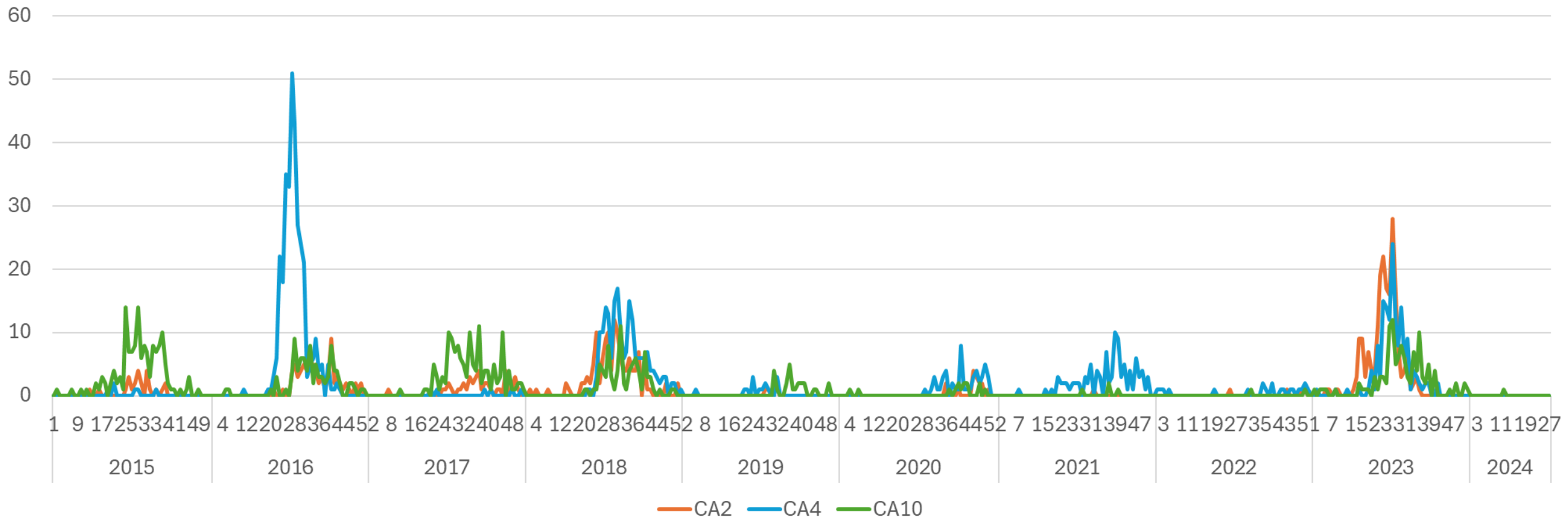
ヘルパンギーナ患者の年別定点当たり患者報告数



ヘルパンギーナ患者の年齢別割合



ヘルパンギーナ患者からのウイルス分離・検出報告数（2015年～2024年8月）



咽頭結膜熱

病原体

主にアデノウイルス3型、2型

感染経路

飛沫感染、接触感染、経口感染

好発年齢

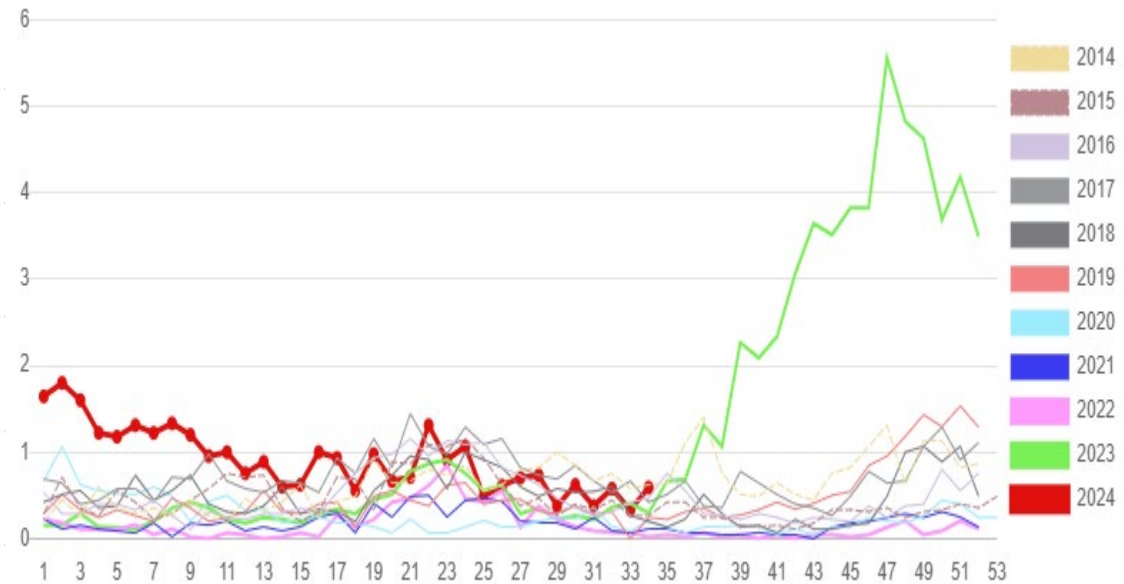
1歳を中心に5歳位までの幼児に多い

流行時期

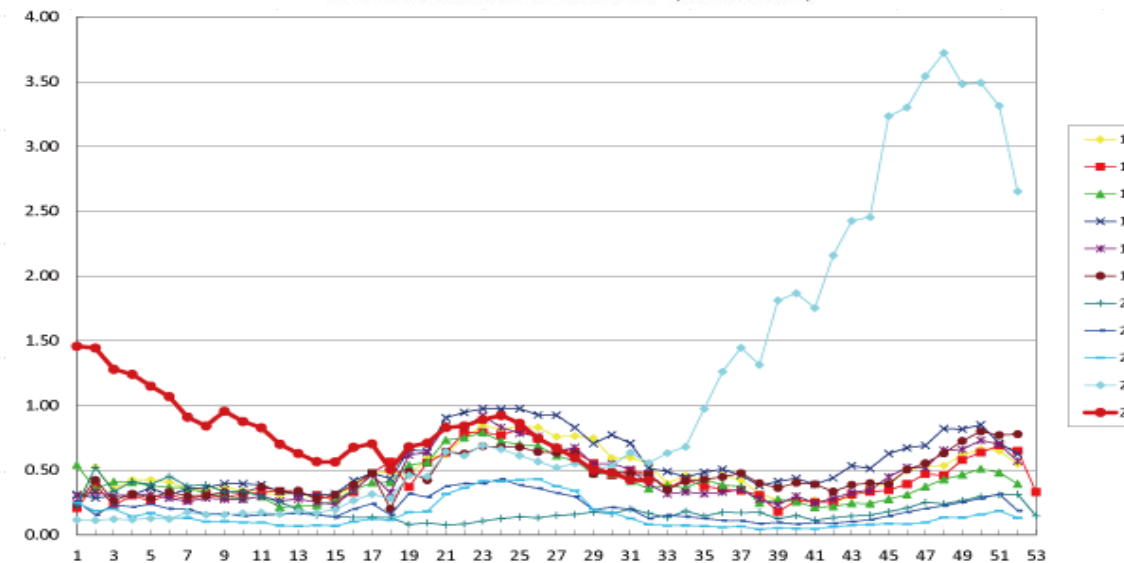
例年、6～7月にピークがある

登校（園）基準

主要症状が消退した後2日を経過するまで出席停止



三重県の咽頭結膜熱定点当たり患者届出数 (2024年34週現在)

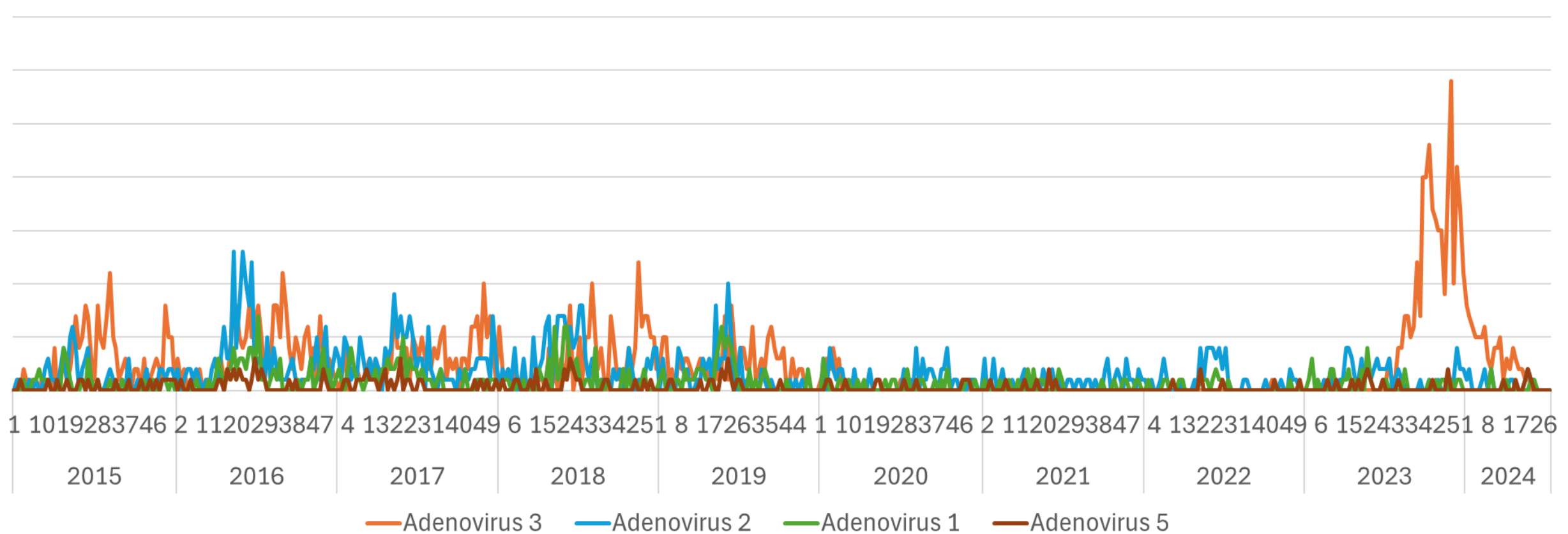


全国の定点当たり患者報告数 (2024年32週現在)
国立感染症研究所のホームページより

国立感染症研究所IDWR2023年第42週「注目すべき感染症」
<https://www.niid.go.jp/niid/ja/adenopfc-m/adenopfc-idwrc/12351-idwrc-2342.html>

県情報センター https://www.kenkou.pref.mie.jp/disease_conjunctival_fever.html

咽頭結膜熱患者からのウイルス分離・検出報告数（2015年～2024年7月）



RSウイルス感染症

■ 病原体

RSウイルス

■ 感染経路

飛沫感染、接触感染

■ 好発年齢

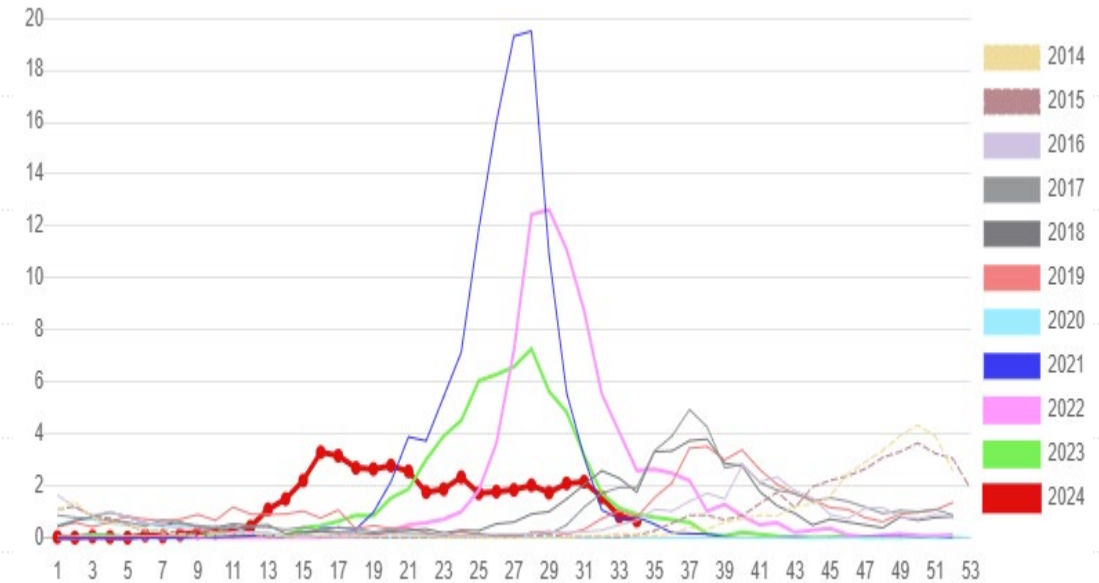
生後1歳までに半数以上、2歳までにほぼ100%罹患

■ 流行時期

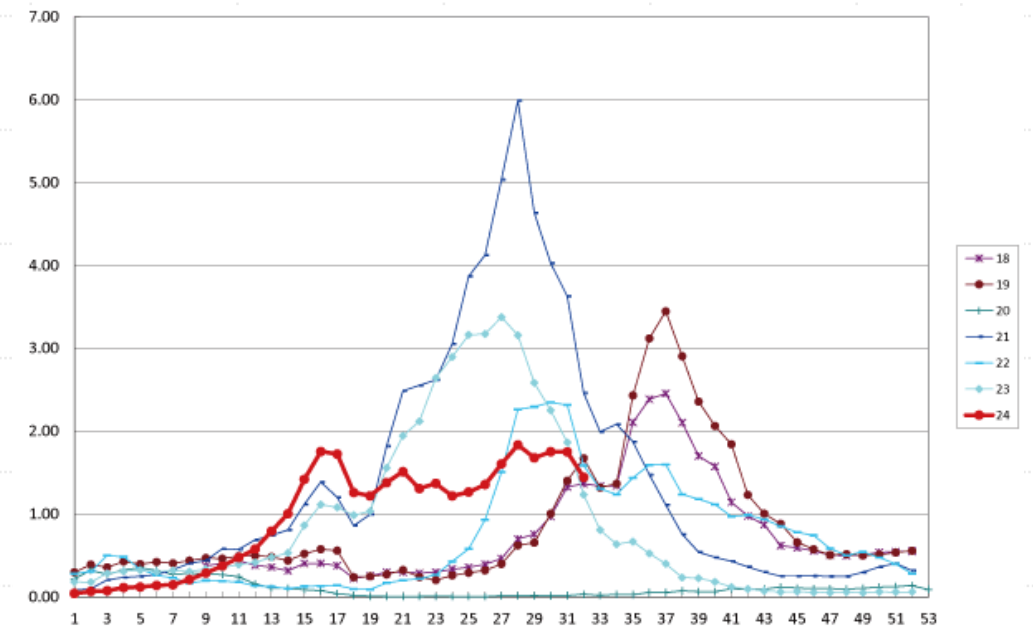
例年、秋にピークがあるが、2021～2023年は夏にピークがあり、2024年は春から増加し流行継続中

■ 登校（園）基準

全身状態が良くなれば



三重県のRSウイルス感染症定点当たり患者届出数 (2024年34週現在)



全国の定点当たり患者報告数 (2024年32週現在)
国立感染症研究所のホームページより

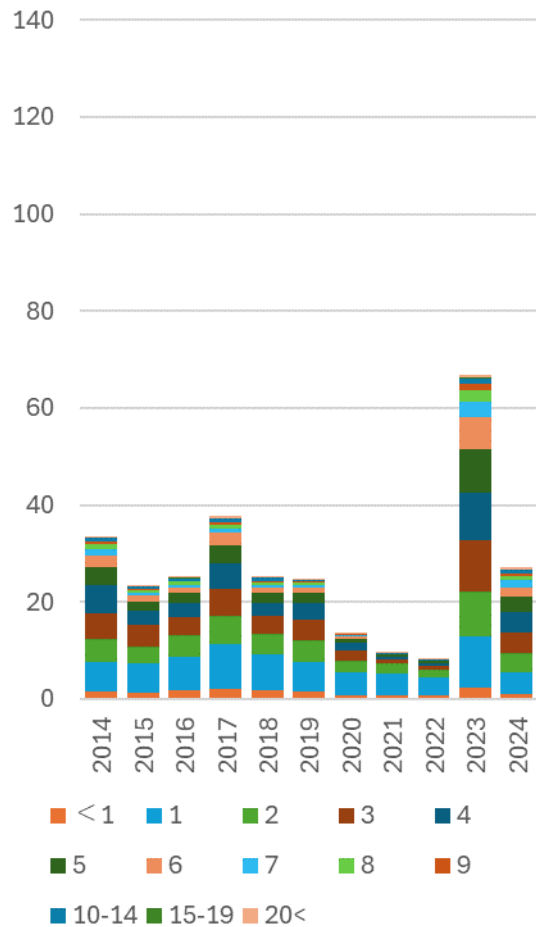
国立感染症研究所IDWR2024年第15週「注目すべき感染症」

<https://www.niid.go.jp/niid/ja/rs-virus-m/rs-virus-idwrc/12658-idwrc-2415.html>

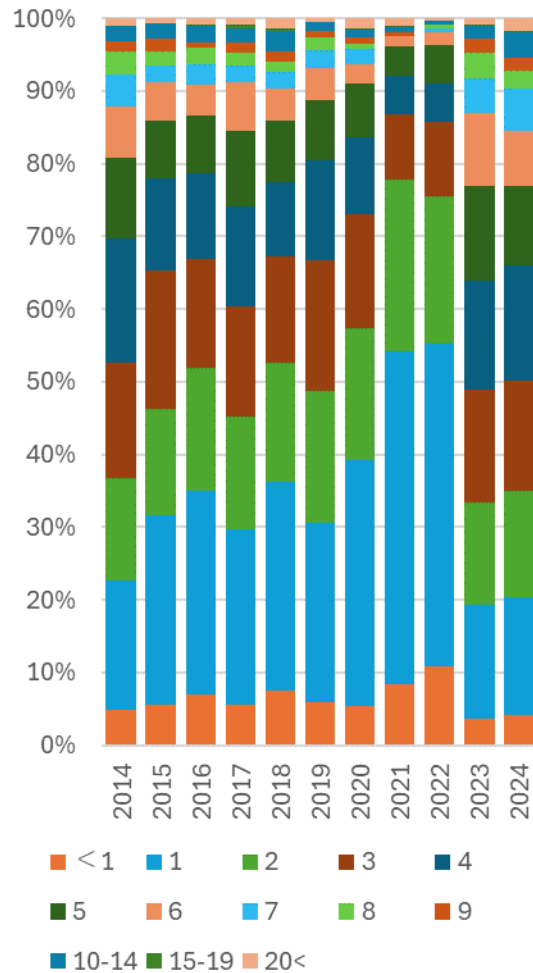
県情報センター https://www.kenkou.pref.mie.jp/disease_rs_virus_infection.html

新型コロナウイルス感染症の出現前後の患者発生状況

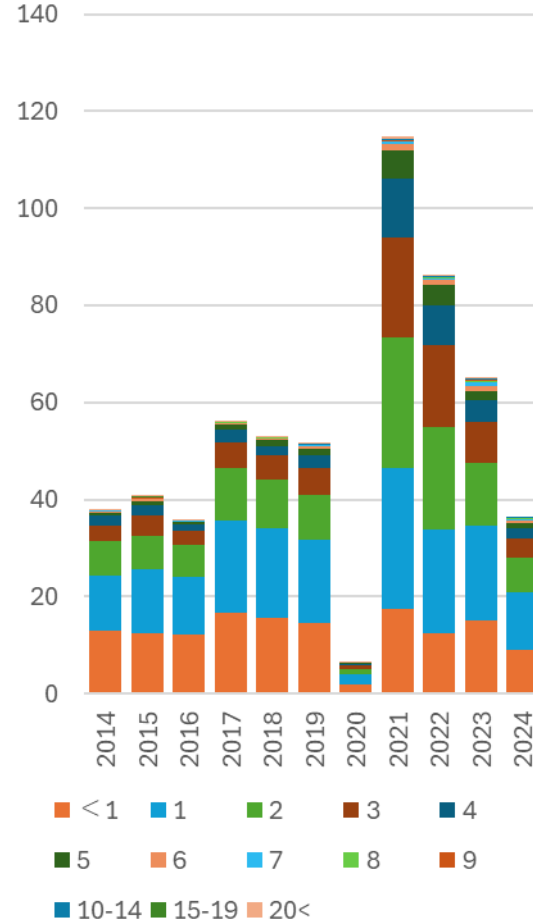
咽頭結膜熱患者の年別定点当たり患者報告数



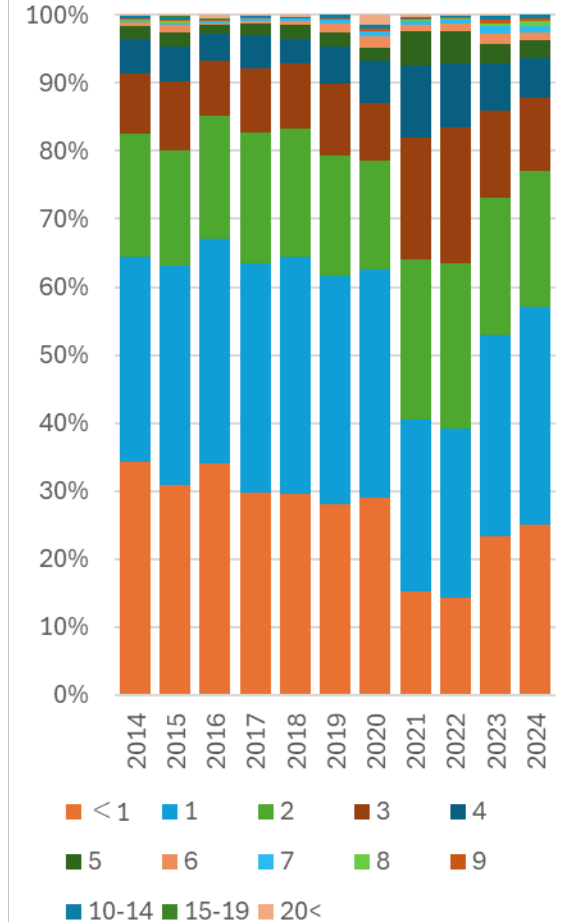
咽頭結膜熱患者の年齢別割合



RSウイルス感染症患者の年別定点当たり患者報告数



RSウイルス感染症患者の年齢別割合



A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

■ 病原体

A群β溶血性レンサ球菌（化膿レンサ球菌）

■ 感染経路

接触感染、飛沫感染

■ 好発年齢

いずれの年齢でも起こり得るが、学童期の小児に最も多い

■ 流行時期

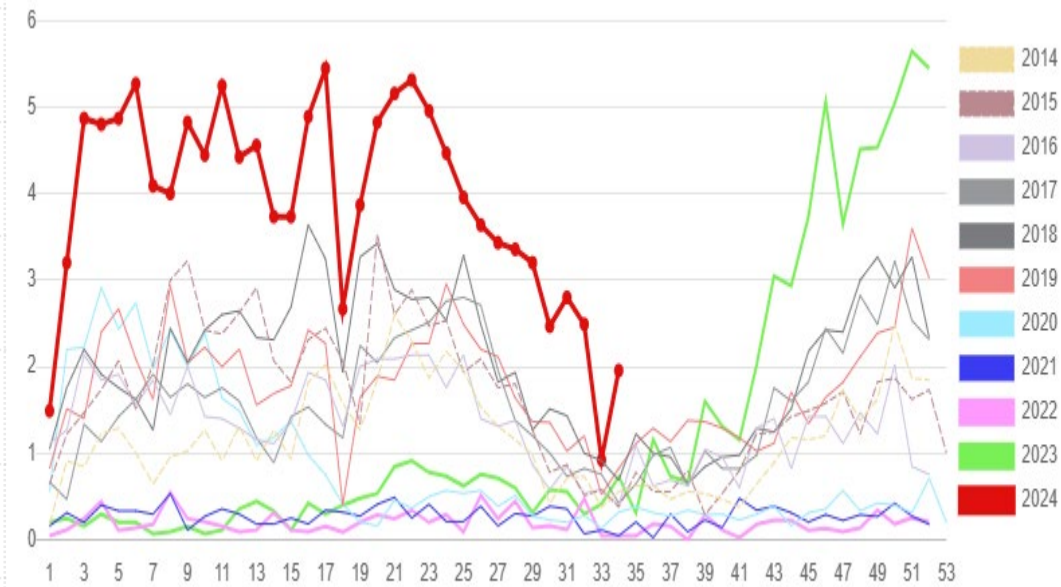
冬季および春から初夏にかけての2つのピークがある

■ 登校（園）基準

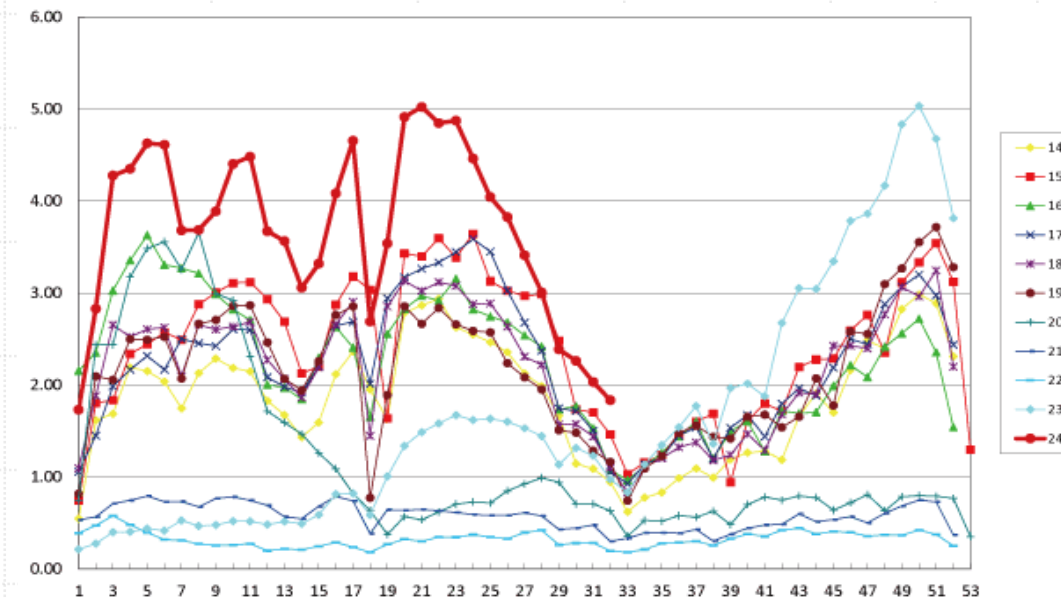
条件によっては、第3種感染症「その他の感染症」として、病状により学校医その他の医師において感染のおそれがないと認めるまでの期間の出席停止の措置が必要と考えられる。

国立感染症研 <https://www.niid.go.jp/niid/ja/kansennohanashi/340-group-a-streptococcus-intro.html>

県情報センター https://www.kenkou.pref.mie.jp/disease_pharyngitis.html



三重県のA群溶血性レンサ球菌咽頭炎定点当たり患者届出数（2024年34週現在）



全国の定点当たり患者報告数（2024年32週現在）
国立感染症研究所のホームページより

マイコプラズマ肺炎

■ 病原体

肺炎マイコプラズマ（細菌）

■ 感染経路

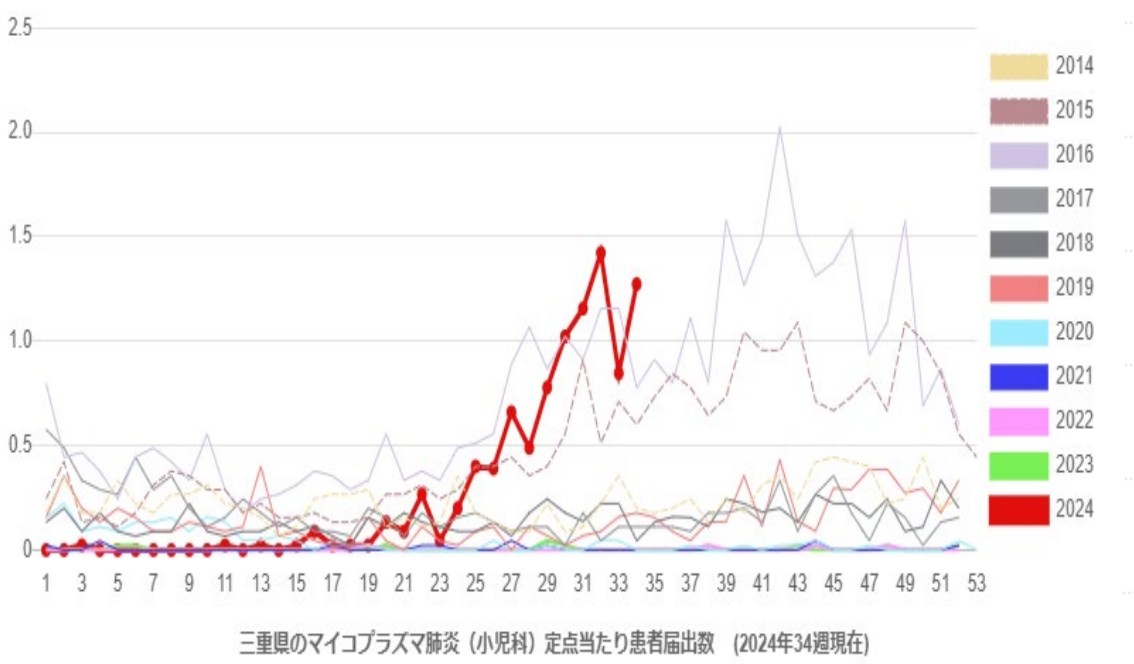
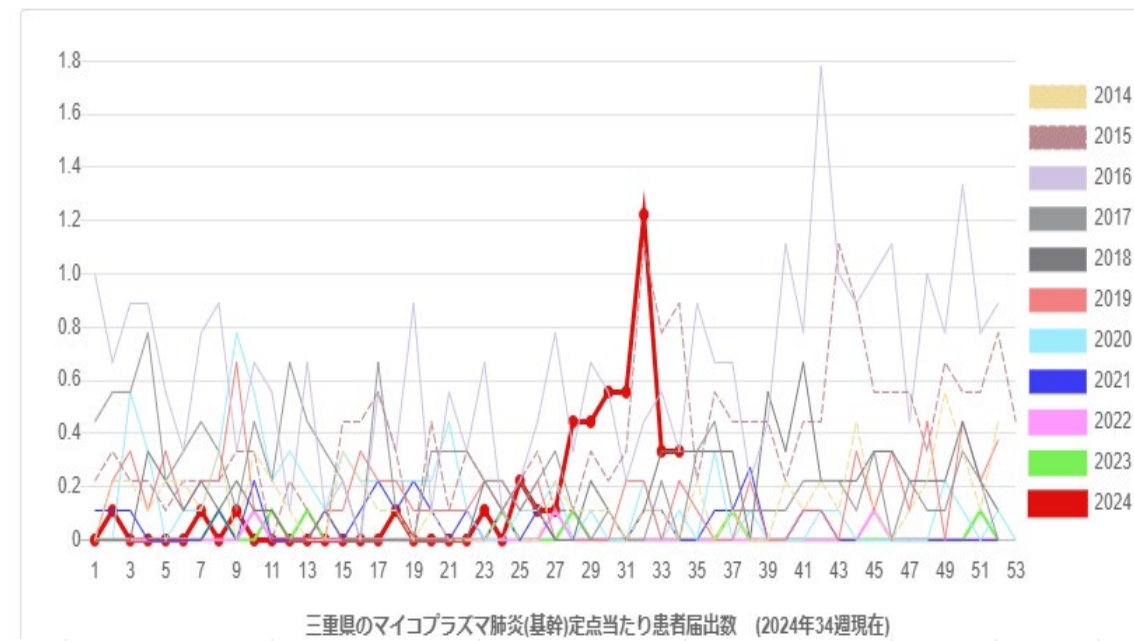
飛沫感染と接触感染

● 臨床症状

潜伏期は通常2～3週間で、発熱、全身倦怠、頭痛など。咳は当初は乾性の咳で、次第に激しさを増し、解熱後も長く続く

■ 流行時期

晩秋から早春にかけて報告例が多くなるが、近年この傾向は崩れている



国立感染症研 <https://www.niid.go.jp/niid/ja/kansennohanashi/.503-mycoplasma-pneumoniae.html>

さっちみえ <https://www.kenkou.pref.mie.jp/sacchimie/disease/myco.html>

マイコプラズマ肺炎

■ 病原体

肺炎マイコプラズマ（細菌）

■ 感染経路

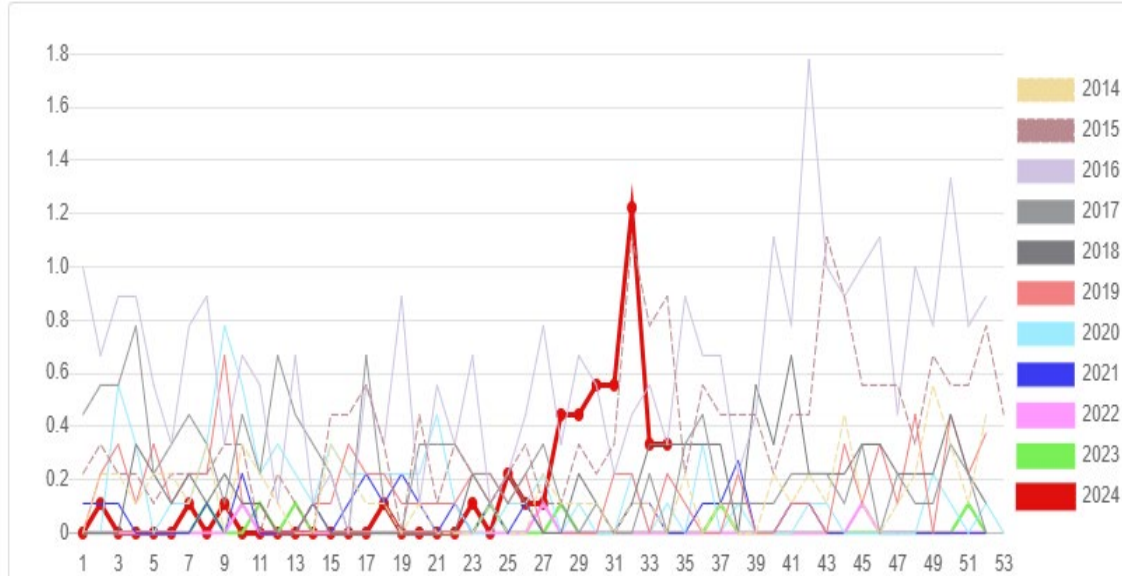
飛沫感染と接触感染

● 臨床症状

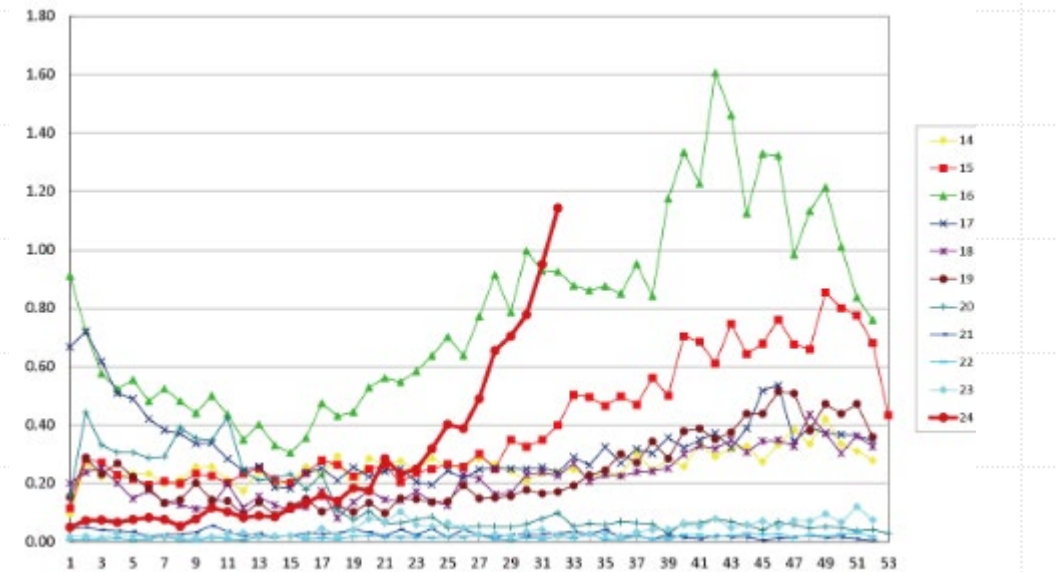
潜伏期は通常2～3週間で、発熱、全身倦怠、頭痛など。咳は当初は乾性の咳で、次第に激しさを増し、解熱後も長く続く

■ 流行時期

晩秋から早春にかけて報告例が多くなるが、近年この傾向は崩れている



三重県のマイコプラズマ肺炎(基幹)定点当たり患者届出数 (2024年34週現在)

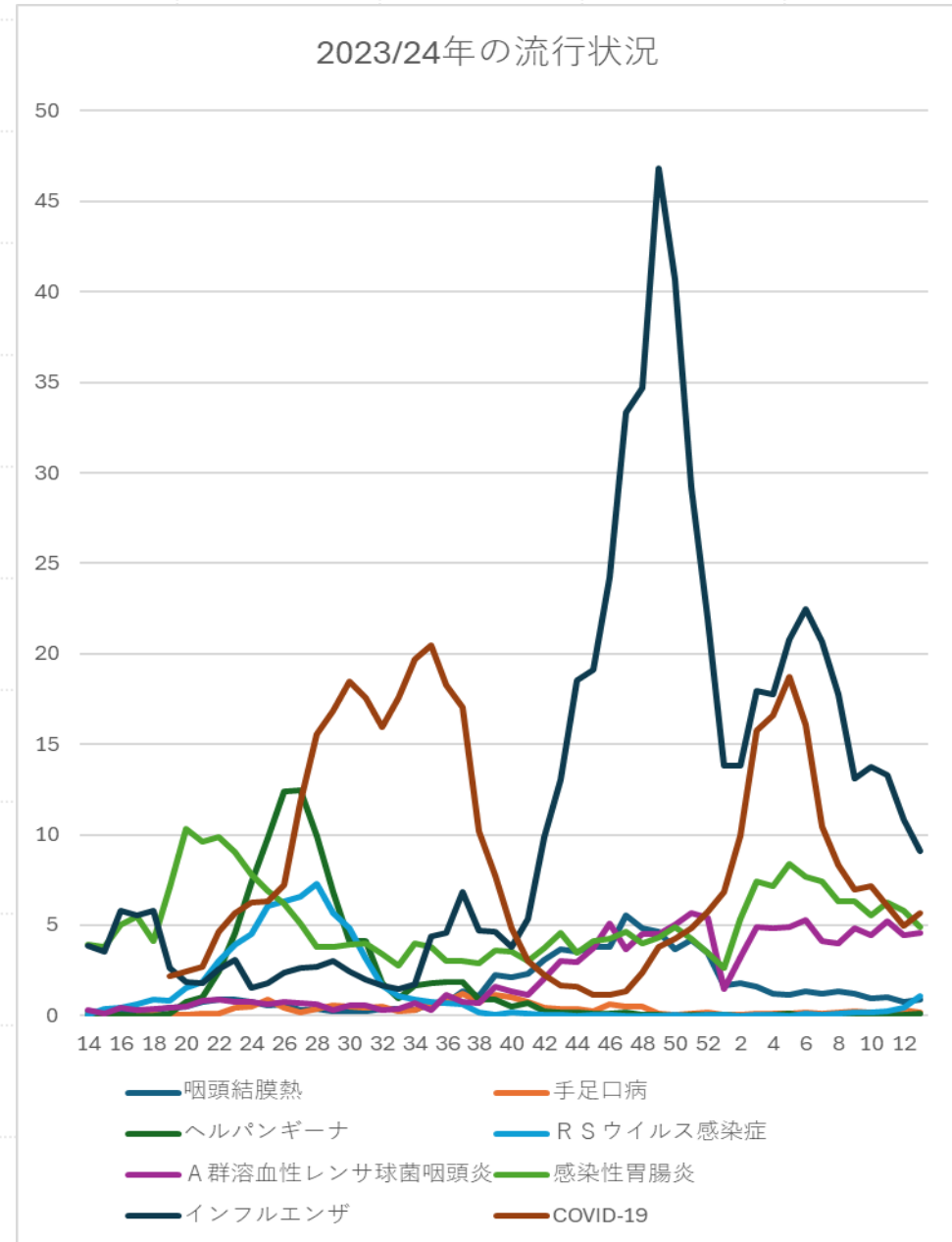
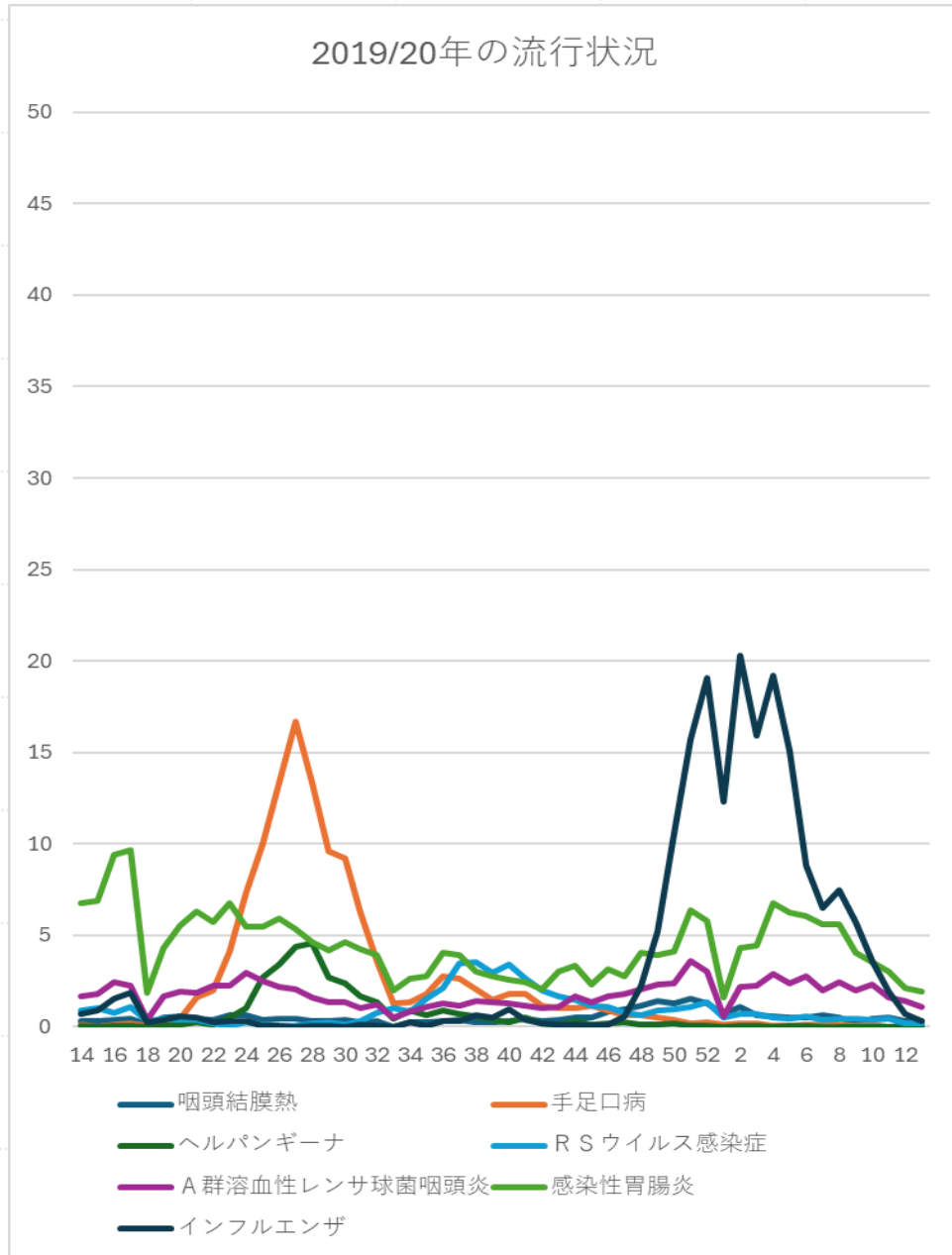


全国の定点当たり患者報告数 (2024年32週現在)
国立感染症研究所のホームページより

国立感染症研 <https://www.niid.go.jp/niid/ja/kansennohanashi/.503-mycoplasma-pneumoniae.html>

さっちみえ <https://www.kenkou.pref.mie.jp/sacchimie/disease/myco.html>

新型コロナウイルス感染症の出現前後の小児科疾患等流行状況





ご清聴ありがとうございました

急性呼吸器感染症サーベイランス

(インフルエンザ/COVID-19定点のうち、三重県独自サーベイランスに協力いただいている医療機関のみの集計です。)

2024年34週の患者報告数 (定点あたり)

速報値で作成しており、後日数値が変更になる可能性があります。

急性呼吸器感染症
36.98人
先週： 30.47

急性呼吸器感染症のうち
新型コロナウイルス感染症
8.85人
先週： 9.07

急性呼吸器感染症のうち
インフルエンザ
0.08人
先週： 0.21

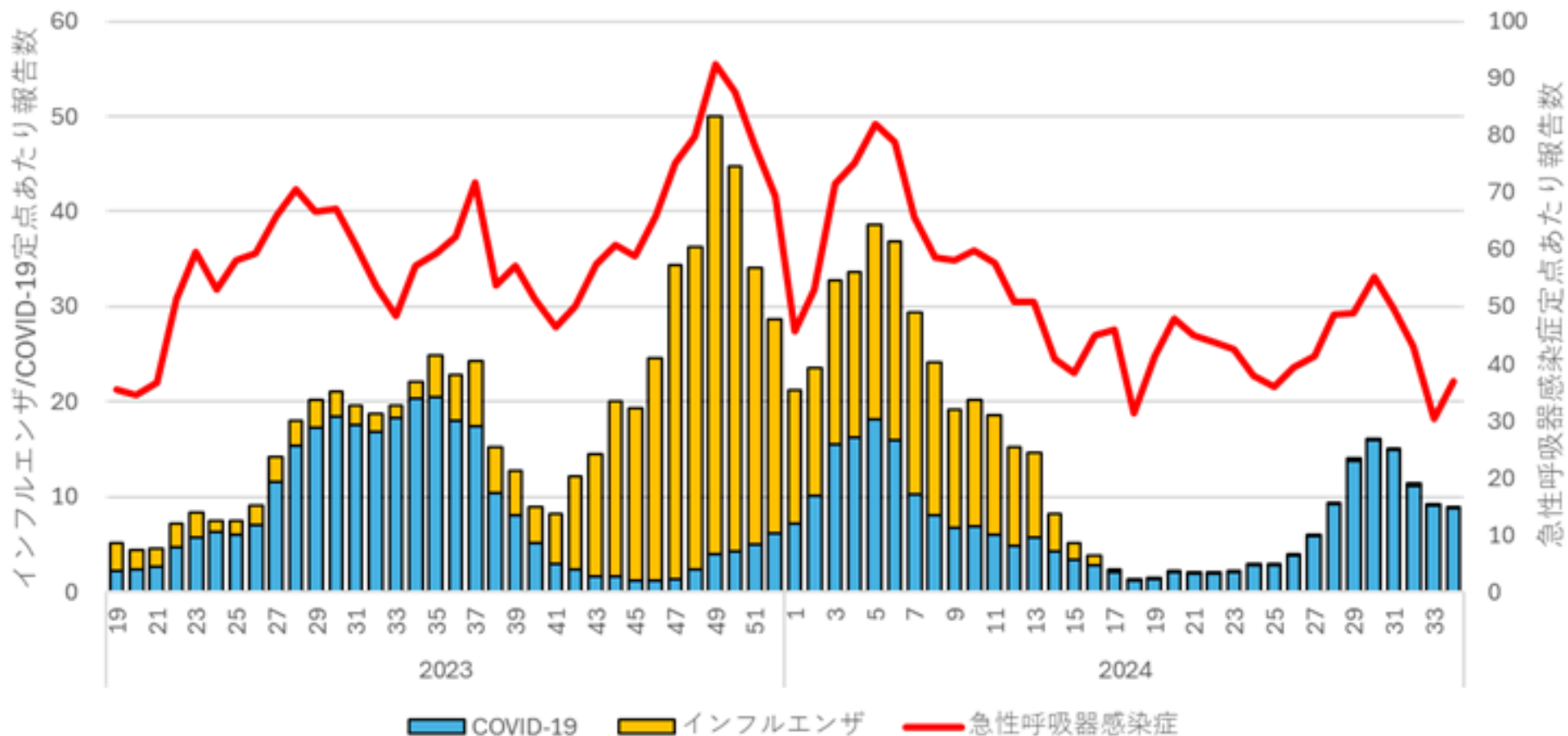


図1. 疾患別定点あたり患者報告数

インフルエンザ：急性呼吸器感染症のうちインフルエンザ数, COVID-19:急性呼吸器感染症のうち新型コロナウイルス感染症数

FilmArray呼吸器パネルを用いた病原体サーベイランス

	2024年25週	2024年26週	2024年27週	2024年28週	2024年29週	2024年30週	2024年31週	2024年32週	2024年33週	2024年34週
検体数	27	36	34	41	45	46	42	46	42	25
陽性数	21	24	24	32	28	33	27	32	27	15
陽性率(%)	77.8	66.7	70.6	78.0	62.2	71.7	64.3	69.6	64.3	60.0

(複数の病原体が検出される検体もあるため、グラフ中の陽性数を合計すると、上記陽性数より多くなることもあります。)

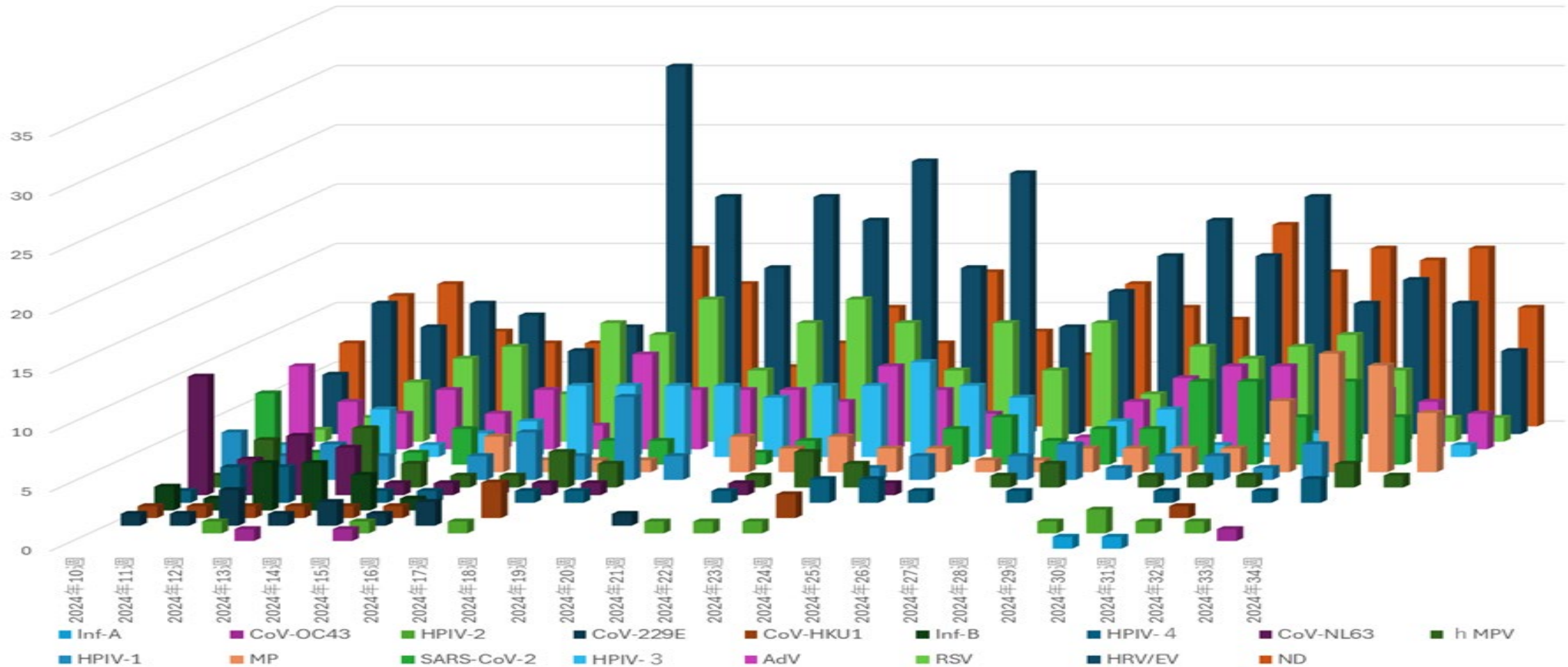


Fig 1. 検出病原体